

略 又有梅溪子者、姓宇文氏、精于太乙數、且善圖夢、以術授樂平人汪經、近世圓夢之術、蓋本諸此、  
〔通俗編二十〕一 圓夢 浩然齋視聽鈔、圓夢出南唐近事、憑僕舉進士時、有徐文幼、能圓其夢、按占夢  
事最古、漢藝文士載黃帝長柳占夢十一卷、周禮司寤掌王六夢、蓋其大略也、其謂之圓夢、亦非始于  
南唐、李德裕載明皇十七事云、或毀黃幡綽在賊中、與大逆圓夢、皆順其情、而忘陛下積年之恩寵、已  
見此圓字矣、

〔日本書紀五〕崇神 四十八年正月戊子、天皇勅豐城命、活目尊曰、汝等二子、慈愛共齊、不知曷爲嗣、各宜夢、  
朕以夢占之、二皇子於是被命、淨沐而祈寐、各得夢也、會明、兄豐城命、以夢辭奏于天皇曰、自登御諸山、  
向東而八廻弄槍、八廻擊刀、弟活目尊、以夢辭奏言、自登御諸山之嶺、繩緬四方、逐食粟雀、則天皇相夢、  
謂二子曰、兄則一片向東、當治東國、弟是悉臨四方、宜繼朕位、

〔伊勢物語下〕むかし、世心づける女、いかで心なさけあらん男に、あひみてしがなと思へど、いひ出  
んもたよりなきに、誠ならぬ夢がたりをす、子三人をよびて、かたりけり、ふたりの子は、なさけな  
くいらへてやみぬ、さぶらうなりける子なん、よき御男ぞいで、こんとあはするに、此女けしきい  
とよし、こと人はいとなさけなし、いかでこの在五中將にあはせてしがなと思ふ、心有加りしあ  
りきけるに、いきあひて、道にて馬の口を取て、かうくなん思ふといひければ、哀がりて、きてね  
にけり、

〔江談抄一〕大入道殿夢想事

大入道殿兼家 爲納言之時、夢過合坂關、雪降關路、悉白、令見給、天、大令驚、天、雪ハ凶夢也、ト思、天、召  
夢解、欲令謝テ、令語給、ニ、夢解申云、此御夢想極吉夢也、慥以不可有恐、其故ハ、人必可令進斑牛、即人  
令進斑牛、夢解預纏頭也、大江匡衡令參、此由有御物語、匡衡大驚テ、纏頭可召返、合坂關者、關白之關  
字也、雪者白字也、必可令到關白、大令感給、其明年〇正曆元年、令蒙關白宣旨給也、